

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2020年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

2. 招集について

- (1) 招集所は、北ゲート外側付近に設ける。
- (2) 種目別招集開始・完了時刻は、プログラムの競技日程に記載している。
- (3) 招集の方法については次の通りである。
 - ① 招集開始時刻前に本人または代理人が第一招集スタートリストのレーン順(試技順)に○印を付け、トラック競技のみ腰ナンバー標識を受け取り、待機所で待ち、招集開始時刻に招集所で競技者係の点呼を受ける。
 - ② 代理人による最終点呼は認めない。招集完了時刻に遅れた競技者は、出場できない。
 - ③ アスリートビブス(ナンバーカード)・スパイクピン・商標の点検を受ける。
 - ④ 携帯電話等、競技規則144条3(b)に関わる機器を持ち込んでいないか確認を受ける。
 - ⑤ 2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が競技者係に用意した「2種目同時出場届」に記入し、1種目の招集時に招集所へ提出する。
 - ⑥ 欠場する者は、「欠場届」に必要事項を記入し、招集開始時刻前に招集所に提出する。
- (4) リレー競技の招集について
 - ① リレーのオーダー用紙の提出は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに、招集所に1部提出しなければならない。招集完了時刻前であっても、一度提出したオーダー用紙の差し替えは認められない。

3. アスリートビブス(ナンバーカード)について

- (1) アスリートビブス(ナンバーカード)は、折り曲げないで、ユニフォームの胸と背に確実に1(4ヶ所、2点止め)但し、跳躍競技の競技者は、胸部又は背部のみでよい。
- (2) 3000mの競技は、別アスリートビブス(ナンバーカード)を使用するので、競技開始時刻1時間前までに招集所へ受取りにくること。腰ナンバー標識を2枚取り付ける。

4. 競技場内への入退場について

- (1) 招集所から競技者係の誘導により競技場に入場する。
- (2) 競技終了後は、競技役員の指示に従い退場する。

5. 競技について

- (1) トラック競技について
 - ① トラック競技の計時は、すべて写真判定装置を使用する。
 - ② レーンで行うトラック競技においては、欠場者のレーンは空ける。
 - ③ 短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走る。
 - ④ 競技規則162条8により、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
 - ⑤ スタート時の不適切行為は、注意(グリーンカード)とする。但し、繰り返し行った場合は警告(イエローカード)の対象とすることがある。2度目の「イエローカード」を提示されると、「レッドカード」が提示され、その種目の出場資格は失う。それ以後の種目は出場権は失わないが、受けた「イエローカード」の累積はリセットされず、3回目の「イエローカード」を受けた場合もその種目は失格となる。
 - ⑥ トラック競技はすべてタイムレースとする。
 - ⑦ 800m競走は第2コーナーの終わりにマークされたブレイクラインまで各レーンを走る。競技者はこのブレイクラインから自分のレーンを離れることが出来る。
 - ⑧ リレー競技について
 - ・リレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する。もし、ユニフォームが揃わない場合には、事前に大会総務に申し出ること。

・マーカー(最大50mm×400mmの粘着テープ)として1カ所、自らのレーン内に貼ることが出来る。マーカーはチームで用意し、使用したマーカーは各チームの前走者が撤去すること。

【注意】バトンパスが開始され、バトンパスが完了していない状態でバトンを落とした場合には、バトンは渡し手(前走者)が拾わなくてはならない。バトンパスが完了し、受け手(後走者)が唯一の保持者となった後にバトンを落としたら、受け手が拾わなくてはならない。

(2)フィールド競技について

- ①跳躍の競技者は、助走路の外側(走高跳は助走路内)に主催者が準備したマーカーを2個まで使用することができる。また、サークルで行う投てき競技は、マーカーを1つだけサークル外側に使用することができる。
 - ②フィールド競技における競技場内での練習試技は、すべて競技役員の指示に従う。
 - ③フィールド競技の試技は3回とする。(走高跳、棒高跳を除く)
- (3) 競技者は、ビデオ装置・レコーダー・ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することはできない。
- (4) 競技者は勝手に競技場所を離れることはできない。

6. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、最後の一人になり優勝が決定するまでは次の通りとする。

(ただし、天候等の状況により変更することもある)

種目	種別	練習	バーの上げ方							
走高跳	男子	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	以降3cmずつ上げる
	女子	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	以降3cmずつ上げる		
棒高跳	男子	2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	以降10cmずつ上げる			

7. フィールド競技の未計測の実施について

フィールド競技では、下記の表に達しなくとも最初の計測対象試技を計測する。以後の試技で、前の距離または下記の記録に達しない場合は計測しない。

走幅跳	共通男子	5m35	共通女子	4m20
砲丸投	共通男子	9m50	共通女子	9m50

8. 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール以外、競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使用しなければならない。
- (2) スパイクピンの長さは、9mm以内、走高跳は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は11本以内とする。
- (3) 投てき競技(砲丸投重量)は次の通りとする。

共通男子	5.000kg
共通女子	2.721kg
- (4) ハードルの高さは次の通りとする。

共通男子	110mH	0.914m
共通女子	100mH	0.762m

9. 抗議について

発表された結果に対する抗議は、競技規則第146条に定められている時間内(アナウンス後15分以内)に、競技者自身または、代理人が担当総務員を通じて審判長に対して口頭で行い、控室で裁定を聞く。さらに、この裁定に納得できない場合は預託金(1万円)を添え、担当総務員を通じて文書で申し出る。

10. 表彰について

- (1) 各種目3位までの入賞者に記録証を授与する。

11. 一般注意事項

- (1) 応急処置、その他健康上の問題が生じた場合は、総務に連絡する。
- (2) 競技場での疾病・傷害等の応急処置は主催者で行うが、以後の責任は負わない。
- (3) 大会期間中の貴重品の保管は、各自・各チームで行う。盗難にあっても責任は負わない。
- (4) 記録はその都度発表するが、別に設置する記録掲示板に印刷物で掲示する。
- (5) 記録証を希望する競技者は、500円を添えて申し込むこと。(総務まで)
- (6) 提出書類は次の通りとする。

	提出するもの	提出場所	提出時刻
1	リレーオーダー用紙	招集所	指定の時刻まで
2	欠場届	招集所	招集完了時刻まで
3	2種目同時出場届	招集所	1種目の招集時

- (7) 本大会をJOC全国中学生陸上競技大会2020の選考対象競技会とする。

※ 本大会プログラム「JOC全国中学生陸上競技大会2020」の要項ならびに申込資格記録を参照のこと。

尚、リレー競技は、8月8日、9日に開催される「全日本中学生通信陸上競技大会岩手県大会」の優勝チームを代表とする。

12. 練習会場の使用について

- (1) トラック競技・走幅跳の練習は、サブトラックを使用する。砲丸投と棒高跳・走高跳は施設用具の関係上、本競技場内で下記に定める時間に監督の付き添いの下に行うことができる。

	本競技場の開放	砲丸投ピット	補助競技場	棒高跳ピット
7/18(土)	7:30～ 8:30	7:30～ 8:30	7:30～ 17:00	7:30～ 8:50
7/19(日)	7:30～ 8:30	7:30～ 8:30	7:30～ 17:00	

- (2) 本競技場での練習は次の通りとする。

①競走路使用は原則として以下の通りとする。

- ・1～2レーン: 中・長距離
- ・3～6レーン: 短距離(スタートダッシュはホームストレート地点)
- ・7～8レーン(ホームストレート): 100mハードル・110mハードル